



議会だより

第

117

号

群馬県昭和村議会

令和7年2月1日 12月定例会



Contents

2～7 第19回中学生議会

12～15 全員協議会・トピックス

8～9 12月定例会

16～21 村の姿勢を問う

10～11 各常任委員会

第3回昭和村はたちの記念式典

第19回 中学生議会

令和6年11月12日に第19回中学生議会が役場議場において開催。村が活性化するように発想豊かに、本番さながらの一般質問や提案がありました。



3年1組

1班 「昭和村の人口増加にむけての取り組み」

茂木一・関川航希・角田琉斗・原澤直之・新木亨菜

問

子育て支援の補助金や政策について、どのような取り組みをしているのか。

答

村の年間出生数は30人弱に減少。誕生祝金10万円支給や、学校給食費の無償化、高校生までの医療費の無償化などを行っている。また、「子ども家庭センター」を設置し、気軽に相談できる取り組みをしている。

提案

子育て応援助成金を2子・3子と5万円ずつ増額をして、人口増を促すことを提案。

答

一つの政策として調査・研究をさせていただく。「どこよりも子育てしやすい村づくり」を実現し、人口減少に歯止めを

かけたい。

問

人口を増やすには、空き家・空き地の活用が必要と考える。空き家の数と空き家バンク以外の取り組みは。

答

空き家は現在206戸。空き家解体費用の一部を補助し、空き家の減少に繋げたい。

提案

企業誘致を進め、空き家バンク情報をSNSで発信してはどうか。

答

SNSの活用は効果的で、移住に繋がると思う。さまざまな事業を組み合わせ、空き家対策事業を推進していきたい。

2班 「昭和村の魅力を伝え観光業の活性化」

小野舞帆・加藤さち・唐澤鈴・戸部魅紗希・関上絆斗・中里宗一郎

問

新しく夏の行事を開催する予定はあるか。

答

現時点ではないが、既存のイベントを盛り上げていきたい。

提案

村の放置竹林の竹と長い坂道を利用し、こんにゃく麺や特産野菜を流す「夏だ！みんなで涼もう、流しそうめん祭り」を開催しては。

答

村のPRイベントとして有効だと思う。しかし、コロナ禍以降の飲食に対する制限が厳しく、今後食に関するイベントの計画することがあれば関係機関と相談したい。

問

観光業の発展には企業との連携が必要。どのような企業と連携しているのか。

答

野菜や果物の生産者や加工製造業者、商工会などと連携して、道の駅のイベントを盛り上げている。また、吉本興業とコラボした「よしもとカレー」の商品化などに取り組んでいる。

提案 とらやとの連携により菓子作り体験を復活し、商品販売をしては。

答 昨年度から「しょうわ子ども教室」で和菓子作り体験教室を再開。商品販売については「白小豆」が昭和村産であることをアピールできるため、「とらや」の承諾を得ることができれば、道の駅などの関係者と調整したい。

3班 「昭和村民の健康維持のために」

見城連大・生方徠人・加藤敬二・星野凜華・川端心優

問 村民運動会を再度開催の考えはあるか。

答 村全体で行う従来型の村民運動会の開催は難しいと考えている。

提案 3年生を対象にアンケートを取った結果、「89・5%」が再開を希望。幅広い年齢層の参加を促し、新競技を増やして再開を望む。

答 村ではスポーツ協会の19競技の専門部が年間を通して大会や教室を開催。皆さんにも積極的にそれらに参加していただき、気運が広がれば、従来型村民運動会に変わる複合型のスポーツフェスティバルのような形も模索できるのではないかと考えている。

問 多目的屋内運動場の広場を再活用する考えはあるか。

答 既存の駐車場が狭いため、駐車場の拡張を検討中。駐車場の拡張は秋まつり会場の拡張にも繋がると考えている。

提案 日常的に運動のできる場所の確保や、遊具・トレーニング器具・健康器具を取り入れ、村民が運動できる広場の設置を提案する。

答 遊具設置には多額の費用がかかる。「ふれあいグリーンパーク」に集中整備することで、高額の複合遊具の設置が可能

に。トレーニング器具など利用した運動は沼田市と定住自立圏協定を結んでいるため、お互いの施設を市民料金・村民料金で利用可能。

4班 「あぐりーむ昭和の発展について」

新木衛人・片柳晴希・石井祐輝・角田心々夢・勝見咲良

問 あぐりーむ昭和の来客数を増やし、より発展させていく取り組みと、旬菜館施設工事についてはどう考えているか。

答 旬菜館を中心に、旬の野菜をメインにしたイベントを開催。観光や防災拠点の機能と、都市と農村の交流振興の役割を担う。施設については、レジ前の混雑などで不便をかけている。新改築は最良の方法を模索している。

提案 あぐりーむ昭和を子どもから大人まで楽しめる場所に作る公園の設置を。

答 周辺を農地に囲まれているため、農薬飛散による健康被害や夏場の高温による遊具の安全性などの問題があり、現段階では設置を断念。道の駅の方向性を考えつつ協議していきたい。

問 営業時間を変更しようと思ったことはあるか。

答 夕方に訪れるお客様が少なく、営業時間の延長を考えたことはない。今後の要望を注視しつつ、費用対効果なども考慮し協議していきたい。



5班 「現存施設の充実に有効活用」

鶴瀨優月・藤井心春・秋永柚・高橋里空・石井恒輝

問 小中一貫により廃校となった学校の跡地は、どのように利用する予定か。

答 廃校となった場合、誰が管理し、維持費用はどうするかなど、地域づくりの観点から、より広い視点をもって協議会でしっかりと議論を進めていく。

提案 学校跡地をレストランやカフェ、映画鑑賞、休憩・勉強スペースなどが楽しめる、くつろげる場所にすれば、観光客の誘致にも繋がる。

答 学校は地域コミュニティの一つの大きな施設。地域の思いを軸として、利用の目的や運営主体、資金調達など、幅広い視点での議論が必要。

問 昭和村の古い施設の耐震工事や水食料の確保など、防災対策はされているか。

答 耐震基準を満たしていなかった「大河原小体育館」「社会体育館」「役場庁舎」の耐震改修や建て替えを行い、現在は耐震基準を満たしている。水や食料品は、村内の指定避難所に設置。役場で保管している飲料水や食料・毛布なども速やかに避難所へ届けられるよう、災害対策に取り組んでいる。



提案 大規模地震が多いため、住民センターを中心に

耐震工事など防災対策をすること。被災した際に避難生活が十分できるよう、食料や衣類などの準備を願いたい。

答 村内にある15の指定避難所は耐震基準を満たしているが、一部の住民センターは耐震診断が必要。避難生活に必要な食料、おむつ、簡易トイレなどは準備しているが、避難所や備蓄庫のスペースに限りがあるため、衣類などは用意していない。

6班「未来の子どもたちのために」
飯塚由璃菜・兵藤衣姫・加藤優一・金井大知・関上賀来

問 小中一貫校の建設場所の候補地はどのよう

答 旧統合小中学校建設委員会では建設候補地に議論が集中し、統合小中学校の理念や施設方針を

深く議論ができなかった。今回、新たな協議会を設置し、改めて村の目指す学校の理念や姿も議論しつつ、建設場所についても議論していく。

問 小中一貫校の学校内にはどのような設備を作る予定か。

答 具体的な議論は今後していくが、地域とともにある学校を目指し、地域連携のためさまざまな機能を充実させた学校にしたいと考えている。

提案 エレベーターや大きい学習机。学校外のコンビニ、公衆電話など充実した設備の増設を提案したい。落ち着いた環境で勉強するための自習スペースの導入で、積極的に学習に取り組めると思う。

答 皆さんからいただいたご意見も合わせて、これからの協議会にて議論していきたい。

私は今回の中学生議会で議長という重要な役を務めさせていただきました。最初は緊張していましたが、やっていくうちに緊張がほぐれていきました。私達は普段から村長をはじめとし、たくさんの人たちに支えていただいていることに気づくことができました。

3年後には選挙権を持ちます。そして、10年後には自分がその立場になる可能性があるので、普段から政治に興味をもち、よりよい昭和村にしていけるように今自分ができることを積極的に行動したいです。貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございます。



【議長を務めて】

議長 金井大知





3年2組

1班「住みたくなる昭和村を目指して」

眞下優奈・堤倅衣・石井
伶・上松大雅・須田琉哉

問

昭和村に人が集まる工夫として、現在どのようなことをしているか。

答

秋まつりなどの各種イベントや、道の駅あぐりーむ昭和では新鮮野菜の販売、マルシェなどを実施。小売り事業者を誘致しスーパーマーケットを開店した。また、定住促進のため、森下地内に住宅の造成事業や、家を建てたい方の支援をしている。

提案 小学校・中学校が統合する際に使われなくなった校舎の活用について、スーパーやレストランにすることを提案。廃校を活用することにより、お店の面積は確保でき、村民にとって行きやすい施設になる。レストランでは地産地消を目的とし、村内の食材

をメインに使うというのはどうか。

答

廃校の活用については今後議論をし、その際には今回の提案も協議していきたい。

提案 村外の人に昭和村を知ってもらうために、昭和村の公式マスコットキャラクターをつくることを提案。住民や観光客に親しみやすいキャラクターを作ること、村の魅力を広め、「住みたくなる昭和村」にしていくのはどうか。

答

道の駅あぐりーむ昭和の「しょうわんくん」というキャラクターを活用しながら昭和村をPRしていきたい。今後さまざまなツールを活用し、村の魅力発信に努めていく。

2班「村の地域コミュニティの活性化」

阿部光姫・小野直弥・鈴木
仁・高橋雄大・千明瑠希・
鶴淵遼

問

あぐりーむ昭和の拡大について、どう考えているか。

答

手狭になってきた農産物直売所「旬菜館」の新築または増改築や、隣接地に公園・遊具などを設置することについて、引き続き協議を重ねていく。

提案

露天風呂付き温泉宿の建設を提案。昭和村は四季それぞれの美しい自然を楽しむことができる。宿泊できる施設が村内にあれば、観光客を増やすことに繋がるのでは。

答

今後、宿泊事業者などが「昭和村に温泉宿を造りたい」ということになれば積極的に協力したい。

問

あぐりーむ昭和で新しいイベントを行う計画はあるか。

答

新たに始めるイベントの計画はないが、年間を通して「昭和村桜ま

つり」や「トウモロコシ祭り」など、さまざまなイベントを開催している。

提案 吉本興業フェスや子ども向けイベントを実施しては。

答 既存のイベントと吉本興業とのコラボが実現できれば大変盛り上がり、村の良いPRにもなると思う。今後のイベント計画の際に、参考とさせていただきます。

3班 「今より少しでも過ごしやすい社会へ」

石井陽来々・加藤三彌子・戸丸凜歩・竹吉日和・星野椛音

問 昭和中学校に相談箱があることをご存知か。

答 生徒会が設置する相談箱は承知をしているが、スクールカウンセラーに相談するための相談箱は存じ上げない。



提案 学校ではスクールカウンセラーに相談ができるが、村民は相談できる場が少ないのでは。村民が気軽に相談できるよう、公共施設に相談箱を設置してはどうか。

答 相談内容が多岐にわたるため、村では内容によって担当課ごとに対応。役場1階に村長室を設置し、「村長への意見箱」を設けたので活用を願いたい。

問 スクールカウンセラーの勤務体系は。

答 2名のスクールカウンセラーが村内小中

学校を巡回。各小学校では、1回6時間・年間12回72時間。中学校は1回6時間・年間30回180時間の勤務と決められている。

提案 スクールカウンセラーの村雇用と相談方法の選択制は。

答 スクールカウンセラーの人数は県全体でも足りていないため、村雇用ではなく、県の事業を継続で活用をしたい。相談のしやすい環境づくりは重要であるため、学校などと協議をしていく。

4班 「昭和村の農産物を全国へ」

加藤愛音・野田望桜理・宮田皇成・宮内琉衣・高橋里桜

問 昭和村の農産物を使って、村外と共同開発した料理は。

答 吉本興業とコラボした「よしもとカレー」

ほうれん草編」や、日本の宝物世界大会で準グランプリ受賞の、こんにゃくと川場村のお米を使用した和菓子「はあて」などがある。

提案 横浜市と昭和村の農産物を使った商品の共同開発を提案。昭和村の生こんにゃくと小籠包を組み合わせた「こんにゃく小籠包」の商品化を。

答 大変興味深い発想。こんにゃくを全国・海外にまで広がるようにしっかりと周知をしたい。皆さまにもこんにゃく消費拡大に向けた取り組みなど、引き続き考案してほしい。

問 昭和村の美味しい野菜をSNSで大々的に宣伝したことは。

答 「美味しい野菜」に特化した宣伝ではなく、四季折々の景観や新鮮野菜などの映像・写真を、村ホームページを中心に各種媒体を活用し紹介して

いる。

提案 昭和村の農産物に関するPR動画を若い世代で作成し、SNSアカウントに投稿しては。

答 若い世代の発想でつくる動画は、同世代の人達からも共感が得やすく期待ができると思う。



5班 「村民の安心と安全」

菊井孔明・大塚凛人・高橋宗佑・倉澤暖・関上紗耶香

問

昨年は村内でどのくらい自転車による事故があったか。

答

令和5年度中に発生した交通事故は18件あり、そのうち自転車関連事故は2件。

提案 自転車の交通事故を減らすために、自転車専用の通路の設置を。また、望郷ラインにサイクリングロードをつくり観光客増へ。

答

現在の道幅に専用通路を確保することは難しい。新しい小・中学校が建てられ、新たな道路を建設することになれば、自転車専用通路も計画に入れて設計が可能ではないか。望郷ラインへサイクリングロードの設置は協議が必要。

提案 昭和中学生や村内の自転車通学者に反射タスキの配布を。

答

配布ができるよう関係各所と協議へ。自身を守るためにも、反射材などを着用願いたい。

6班 「新たな学校でのスムーズなスタート」

関上蒼大・高橋優輝・フンティラユウト・青木空南・板橋芭奈

問

小中学校統合について小学生と中学生の関わりを持たせるために、校舎はどのように工夫しようと考えているか。

答

小中一貫の教育のねらいを達するため、効果的な校舎づくりをしていきたい。

提案 小学校と中学校の校舎を別々に作るのであれば、間に渡り廊下をつくることを提案。

答

互いに交流がスムーズに行える校舎の工夫が必要。小・中の校舎そのものを一体化した校舎にしたいと考えているが、提案いただいたことも取り入れながら、今後協議会で議論をしていく。

問

学校が統合するにあたり、いじめが起きないような対策は。

答

統合することで生まれる多様性を認め合い、自他の良さを生かし合える人間関係や社会性の育成に取り組みたい。

提案 小中学校統合に関しての不安と対策について、小中一貫校をつくるのであれば、異学年同士と一緒に学習ができることを提案。

答

自由な空間を持つ校舎であればあるほど、異学年による多様な交流や学び合い活動で、いじめなどの不安は減少し、充実した学校生活が送れると考えている。



【議長を務めて】



議長 加藤 愛音

私は、今回の中学生議会で議長を務めさせていただきました。議場ではマナーや進行の仕方など本格的に学ぶことができました。

議長の周りにはたくさん議員さんがいたのでとても緊張し、責任を感じました。本会議で、昭和村を支えるためにたくさんの方を助けていることを知ることができ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

今回の中学生議会で学んだことを生かすとともに、昭和村の行政に関心をもって生活していきたいと思えます。貴重な経験をありがとうございました。

12月定例会

今定例会は、12月10日から18日までの9日間の会期で開催されました。承認1件、議案12件、議員発議1件をいずれも原案のとおり可決。また6人の議員が一般質問をし、村の姿勢を問いました。

人事

昭和村固定資産評価審査委員会委員の任命同意

藤井照明氏の任命に同意。



(藤井)

昭和村監査委員の任命同意

永井一行委員の辞任に伴い、片柳悦夫氏の任命に同意。



(中野上)

条例改正

昭和村公告式条例の一部を改正する条例

村内8箇所を設置されている公告用の提示版のうち、貝野瀬信号機交差点と、入原地区内にある計2箇所の所在地番を変更。

昭和村税条例の一部を改正する条例

令和6年3月30日に公布された、地方税法等の一部改正により、公益信託制度改革による新たな公益信託制度の創設に伴い、村民税の寄附金税額控除の対象に公益信託の信託事務に関連する寄付金を追加。

昭和村行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用の一部を改正する条例

地方公共団体情報システムの標準化に伴い、住民基本台帳に記載されていない住登外者の情報を庁内連携ができるようにすることなどを条例で定める。

昭和村国民健康保険条例の一部を改正する条例

マイナンバーカードと健康保険証が一体化となることに加え、従来の被保険者証が廃止されたため、本条例で規定している、国民健康保険被保険者証の返還義務に応じない場合の規定を

削除。

昭和村福祉医療費支給に関する条例の一部を改正する条例

マイナンバーカードと健康保険証が一体化となることに加え、従来の被保険者証が廃止されたため、本条例で規定している、医療を受ける際に提示する書類および減額認定の確認する方法に、資格確認書を加える。

補正予算

令和6年度昭和村一般会計補正予算(第4号)

3千998万2千円増額

総額

51億8千682万9千円

空き家解体補助金や不妊治療費助成金などの増額。

令和6年度昭和村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

5千904万1千円増額

総額

12億9千250万5千円

医療諸費や高額療養費などの増額。

令和6年度昭和村介護保険特別会計補正予算(第2号)

8千595万円増額

総額

8億7千782万7千円

介護予防サービス給付費などの増額。

令和6年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

143万2千円増額

総額

1億1千501万1千円

後期高齢者医療広域連合納付金の増額。

令和6年度昭和村簡易水道事業会計補正予算(第1号)

収益的支出 料金・維持管理費など

12万7千円増額

総額

1億6千344万円

資本的支出 (施設改修費など)

500万円増額

総額

5千781万4千円

中央簡易水道排水管布設替工事費などの増額。

承認（専決処分）

令和6年度昭和村一般会計
補正予算(第3号)

679万6千円増額

総額

51億4千684万7千円

10月の衆議院議員総選挙
に伴う増額。

発議

こんにゃく芋の価格低迷に
対する農業支援を求める意
見書

こんにゃく芋の卸し価格
低迷に伴い、生産農家は農
業経営が圧迫され、危機的
な状況に陥っている。

こうしたことから、こん
ゃく芋生産農家が意欲を
持つて営農が継続できるよ
う、意見書を群馬県知事、
群馬県議会議員、群馬県農
政部長へ提出する。

要望事項

1. こんにゃく芋の卸し価
格安定対策の実施
2. こんにゃく芋生産者に
対する経営支援
3. こんにゃくの販路拡大

提出された議案等と賛否一覧

※○は賛成 ●は反対 ※議長は、採決に加わらない。

第5回定例会（令和6年12月10日～18日）

		堤宏康	佐藤好美	林栄一	倉沢つかさ	林勝美	阿部孝司	片柳悦夫	藤井貞充	林幸司	加藤生	沢浦典子	永井一行
承認第5号	専決処分事項の承認を求めることについて 令和6年度昭和村一般会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第54号	昭和村公告式条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第55号	昭和村税条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第56号	昭和村行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等 に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正す る条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第57号	昭和村国民健康保険条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第58号	昭和村福祉医療費支給に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第59号	令和6年度昭和村一般会計補正予算(第4号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第60号	令和6年度昭和村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第61号	令和6年度昭和村介護保険特別会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第62号	令和6年度昭和村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)につい て	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第63号	令和6年度昭和村簡易水道事業会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第64号	昭和村固定資産評価審査委員会委員の選任同意について	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○
議案第65号	昭和村監査委員の選任同意について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
発議第2号	こんにゃく芋の価格低迷に対する農業支援を求める意見書について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-

みなさんからの請願・陳情

自 令和6年11月12日 至 令和6年11月25日

受理 番号	受 理 年月日	件 名	請願・陳情者	紹介議員 氏 名	付 託 委員会	審議 結果
33	R6.11.12	街灯設置に関する陳情書	株式会社並木 静 朋人		総務 民生	採択
34	R6.11.18	政党機関紙の庁舎内勧誘行為の実態調査 を求める陳情書	政党機関誌の庁舎内勧誘の自 粛を求める群馬県民の会 代表 上田 寿江		総務 民生	不採択
35	R6.11.18	村道 中野上24号線(約570m)の道路 舗装工事のお願い	中野区長 星野 千代恵	加藤 生	文教 産建	採択
36	R6.11.19	永井日向地区内の道路舗装に関する請願 書	永井区長 藤井 増好 地権者代表 藤井 利幸	藤井貞充	文教 産建	趣旨 採択
37	R6.11.22	村道桂坂板戸線 道路拡幅及び側溝布設 替えに関する請願書	入原区長 高橋 厚一 川額区長 千木良厚巳	倉沢つかさ 堤 宏康	文教 産建	採択
38	R6.11.25	「食料自給率向上自治体宣言」を求める請 願	利根沼田農民連 代表 後藤 利雄	林 幸司	文教 産建	趣旨 採択

総務民生常任委員会

村政一般、庶務、民生、保健、他の委員会に属さない事項を所管

陳情2件審査 採択と不採択に

12月12日に総務民生常任委員会を開催し、請願について審査しました。

審査

街灯設置に関する陳情書を採択

赤城高原サービスエリア上り線から、従業員の駐車場をつなぐ村道サービスエリア線には、街灯が設置されていない。

現地調査にて「サービスエリアに勤務する村民もいること。地域住民が散歩に利用している姿も見られること。夜間、現状では暗く、村道の側溝に蓋がないため歩行者が足を踏み外し転倒



赤城高原SA上り線付近

したり、通行車両の脱輪など大変危険であること。」などの説明を受けた。
これらを踏まえ、慎重に審査をした結果、歩行者・走行車の安全確保のため既存の電柱を利用した街灯設置を、賛成多数で採択すべきものとした。

政党機関紙の庁舎内勧誘行為の実態調査を求める陳情書を不採択

職員が庁舎内で政党機関紙の勧誘を受けたり、購買すること、心理的な圧力を感じたかの実態調査を求めるものである。

審査の中で、出席している職員にそのような実態があるのかを確認したところ、「これまで、そのような行為を受けたり、見かけたりしたことはない。」とのことであった。さらに、今後、心理的圧力を受けた職員が発生した場合は、相談窓口として総務課が対応することを確認した。

これらを踏まえ、現状では、実態調査の必要性が乏しいことから不採択とした。

所管事務調査

問 「子ども家庭センター」の設置後の現状と取組内容について教えてください。

答 健康福祉課

子ども家庭センターは、子どもや子育て世帯・妊産婦を対象に、医療・福祉・保育・教育などの多方面から継続して一体的な支援を行い、妊娠・出産・子育てについて不安なことや、困ったことなどを気軽に相談できる場所。

「つらい時 なやんだ時 がんばりすぎている時にしゃべろうね」という気持ちを込めて愛称を「つながろ」としている。

昭和村保健センター内、健康福祉課（TEL 0278（24）5142）に設置。対応時間は、月・金（祝日・年末年始を除く）午前9時～午後5時。

問 防犯灯の設置について確認したい。

答 総務課

行政区の境については区と相談して村で設置をしてきた。

通学路に関しては、PTAなどの要望に基づいて、現状を確認したうえで対応していく。

問

森下JA跡地の分譲の見通しについては。

答 企画課

11月30日に工事完了。現在、測量・分筆登記について業者と調整中。登記終了後に販売条件や価格を検討し、議会の同意を得て、速やかに募集できるよう進めていく。



JA久呂保跡地

文教産建常任委員会

教育、産業、経済、土木、建設、簡易水道、農業集落排水などに関する事項を所管

請願4件を審査 採択2件と趣旨採択2件

12月13日に文教産建常任委員会を開催し、請願4件について現地調査を行い、審査しました。

審 査

「村道中野上24号線(約570m)の道路舗装工事のお願い」の請願書を採択

中野区長などから、上中野地区と大規模農道を結ぶ生活道路で、農産物の生産に極めて重要な幹線道であるが、未舗装のため、集中豪雨などで土砂が流出。通行に支障を来すとの説明を受けた。

これらを踏まえ慎重に審議した結果、全会一致で採択すべきものとした。



村道中野上24号線

「永井日向地区内の道路舗装に関する請願書」を趣旨採択

地権者代表などから、道路は赤線道路で農作業用、生活用道路で利用している。傾斜地で未舗装、豪雨時には、土砂で路肩が崩れる恐れがあり、危険であるとの説明を受けた。

これらを踏まえ、慎重に審議した結果、多面的機能交付金などの活用も考え、全会一致で趣旨採択とすべきものとした。



永井日向地区内道路

「村道桂坂板戸線道路拡幅及び側溝布設替えに関する請願書」を採択

入原副区長、川額区長などから、村道は県道下屋

渋川線から村内各主要幹線道路と結ぶ重要な幹線道路で、県道から赤城高原サーブスエリアの区間が、急勾配・急カーブが連続し、幅員も狭く、側溝蓋もないとの説明を受けた。

冬期間は路面凍結時の脱輪、道路脇の山林の落葉が側溝に詰まることにより土砂が流出し、大変危険であるとのこと。

これらを踏まえ、慎重に審議した結果、全会一致で採択すべきものとした。



村道桂坂板戸線

「食料自給率向上自治体宣言を求める請願」を趣旨採択

日本の食料自給率の向上やオーガニック栽培などの

宣言は、農業の活性化推進には重要とのこと。

これらを踏まえ慎重に審議した結果、賛成多数で趣旨採択とすべきものとした。

視察研修

渋川市道の駅 こもち

道の駅こもちは、国道17号沿いに建設されており、観光で訪れる方に好評。地元の野菜や加工品、お土産、直売所入り口には、季節の花が売られ、訪れる人を魅了している。公衆トイレ、駐車場も充実している。

白井宿に隣接する道の駅は、道の駅めぐりむ昭和構想の参考になる有意義な調査ができた。



全員協議会

10月・11月・12月に開催した全員協議会での主な協議内容は以下のとおりです。

10月29日

赤城西麓土地改良事業敷島

1・2地区

永井地区周辺の土地改良事業について、進捗状況などの説明を受け協議する。

沼田市外二箇村清掃施設組合衛生センターにおけるし尿処理受託

沼田市外二箇村清掃施設組合がみなかみ町のし尿処理について受託。それに伴い、構成市町村の負担金が軽減されると説明を受け協議する。

標準化システムの運用開始

行政サービス・住民の利便性の向上などを目的に、住民記録などの業務を標準化システムへ移行し、国が整備した全国的なクラウド環境（ガバメントクラウド）を活用することについて、作業の進捗状況などの

説明を受け協議する。

11月29日

昭和村第6次総合計画の策定

将来を見据え、どのような村を目指すのかをまとめた昭和村第6次総合計画について、令和7年度から令和16年度までの10年間で期間とした基本構想の説明を受け協議する。

12月16日

昭和中学校スクールバスの運行

令和7年4月から永井・赤城原線、追分・赤谷線、生越・大河原線の3路線の運行を目指しているなどの説明を受け協議する。対象となる生徒は51名。

昭和中学校部活動の地域移行の現状

スポーツ庁より、令和5

年度～7年度（3年間）で休日の部活動を地域に移行することなどの通達が出ていることに伴い、今後の当村の方向性について説明を受け協議する。

現地調査

千年の森 J・Wings

きれいに整備されたサッカー場と宿泊棟（クラブハウス）を見学。宿泊棟は160人収容できるとのこと。



整備されたサッカー場

昭和の森山荘

コロナ禍で約4年間閉鎖されている。あちこちに老朽化が見られる現状を確認した。

議会構成を変更

令和6年12月10日付けで議会構成を変更しました。

《議長》

《副議長》

《議会運営委員会》

委員長 加藤 生夫
副委員長 片林 悦勝
委員 倉林 つか
委員 藤井 貞典
副議長（委員外議員） 沢 充子

《総務民生常任委員会》

委員長 林 美一
副委員長 林 夫子
委員 片柳 康行
委員 沢井 典一
委員 堤 永

永井 一典 行子
井浦 典 生夫
藤柳 悦勝 美さ
片林 つか 充子
倉藤 貞典
藤井 典 充子
林 勝 美一
林 夫子 康行
片柳 典一
沢井 永

《文教産建常任委員会》

委員長 倉沢 つか
副委員長 佐藤 好美
委員 加藤 貞孝
委員 藤井 孝司
委員 阿林 幸司

《村づくり対策特別委員会》

委員長 佐藤 好美
副委員長 堤 宏康

《議会広報編集特別委員会》

委員長 林 栄一
副委員長 藤井 孝一
委員 阿部 孝好
委員 佐藤 宏典
委員 堤 子行
委員 沢 永

視 察・調 査・トピックス

町村議会議員研修会

11月5日、玉村町文化センターで開催され、議員全員で参加しました。

講演内容

①『住民に期待される議会になろう！議会力によって地域の未来が変わる！』

講師 中村 健氏

②『町村の防災・減災対策と災害時の議会議員の役割』

講師 鍵屋 一氏

住民に期待される議会になることが大切であること。また、災害時の議会議員の役割の重要性も学んできました。



11月18日・25日の2日にかけて、2班に分かれて農産物や農業機械の盗難被害を防止するため、夜間にパトロールを実施しました。

盗難防止パトロール



第57回村民バレーボール大会に参加

11月3日、村民バレーボール大会にソフトバレーの部で参加しました。

ソフトバレーの部6チームを含む、合計37チーム、およそ400人が参加。コロナ禍後、だんだんと参加チームも増え、大いに盛り上がりしました。

議員出前懇談会

11月上旬から中旬にかけて計6回行い、83名が参加されました。詳しくは次号で掲載します。

町村議会広報研修会

11月21日、群馬県市町村会館で開催され広報委員会が参加しました。

講演内容

「議会の見える化&住民の信頼・認知へ」

講師 議会広報サポーター 芳野政明氏

住民が「読みたくなる情報紙」を考えて作る大切さを学習しました。



国会議員へ陳情書提出

10月2日 議会議員全員と村長、農業委員会長、関係課長とともに衆・参の国会議員会館を訪問しました。

原油や電気、農業生産資材の高騰が続いていますが、農産物への価格転嫁は進んでいません。このままでは、営農が継続できるかどうかという危機的な状況です。このことを踏まえ、昭和村の農業振興について陳情書を提出してまいりました。

要望事項

1 農業生産資材の価格高騰に対応した野菜価格安定対策について

- ① 国産野菜の安定供給と生産者の経営安定のため、野菜価格安定制度を堅持し、十分な予算を確保するとともに、需給調整機能を底上げする観点から必要な拡充が図れるよう推進していただきたい。
- ② 加工・業務用野菜等において、国産への切り替えにより今後の需要が見込めるため、生産者への支援や加工・冷凍、予冷保管施設等の整備支援を拡充していただきたい。
- ③ 持続可能な農業を実現するためには、農業所得の確保が不可欠となり、農産物の価格転嫁は避けて通れない課題となるので、早期法制化を実現し、農業所得が向上するようお願いしたい。

2 群馬県の特産であるこんにゃく芋生産農家の支援の実施について

こんにゃく芋生産者の安定した経営及び持続的発展のため、コスト上昇分の価格転嫁に対する理解の醸成及び消費の拡大を働きかけるPR、輸出、経営持続のための財政的支援を実施していただきたい。

3 畜産農家の負担を軽減する対策について

輸入粗飼料の価格高騰により、多大な影響を受けている畜産農家の経営安定・向上を図るため、配合飼料価格安定制度の見直しや、自給飼料の生産拡大に向けた支援策の充実・強化をお願いしたい。

4 農業生産基盤整備事業等への支援拡大について

今や国内総生産に占める農業の割合は2%を切り、さらに食料自給率も40%と先進国の中では最も低く、今後もさらに落ち込むことが予想されています。未来を見据えた意欲ある農業生産者へ、農業生産基盤整備事業等による受益者負担金の軽減が図れるよう、更なる支援の拡大をお願いしたい。

提出先

内閣官房長官	林 芳 正 様	衆議院議員	小 湊 優 子 様
農林水産副大臣	鈴 木 憲 和 様	衆議院議員	福 重 隆 浩 様
衆議院議員	中曽根 康 隆 様	衆議院議員	尾 身 朝 子 様
衆議院議員	井 野 俊 郎 様	参議院議員	清 水 真 人 様
衆議院議員	笹 川 博 義 様	参議院議員	中曽根 弘 文 様
衆議院議員	福 田 達 夫 様	参議院議員	羽生田 俊 様



中曽根康隆衆議院議員(左)と清水真人参議院議員(右)に陳情書を渡す

総務民生・文教産建常任委員会 合同視察研修

11月6日から8日までの3日間、総務民生・文教産建両常任委員会合同で岡山県へ視察研修に行きました。

子育て支援の先進地

岡山県勝央町

勝央町は岡山県の北東部に位置し、人口は約1万700人。町の中心地「勝間田」は、かつて出雲往来でにぎわった美作7宿のひとつとして知られています。

令和6年4月から、総合保健福祉センター内に、新しく子どもや子育て支援を専門とする「こども未来室」を創設。

妊娠・出産・主に乳幼児期の子育てに関する相談支援を行っていた健康福祉部で、今まで教育振興部で行っていた学齢期以降の子育て支援・不登校・引きこもり支援、貧困対策、就労支援までの業務を一体的に実施。平成25年から「サポートネット協議会」を立ち上げ、

現在複数の部署の業務を総合窓口で支援しています。ワンストップで対応できる

よう、職員がビデオ通話で対応し、子どもの健やかな育ちを支えるため、子どもの成長によるこびや生きがいを感じることができるような社会を目指しています。総合的な支援策を推進していることは、昭和村の子育て環境の充実に役立つ視察研修となりました。



ワンストップ対応を学ぶ

義務教育学校の先進地

岡山県美咲町「美咲町立柵原学園」

岡山県のほぼ中央部に位置する美咲町は、人口約1万3,000人。主な産業は農業で、米のほかブドウを中心とした果樹や、鶏卵を中心とした畜産物の生産が盛んです。

今回の視察では、旧柵原中学校、旧柵原西小学校、旧柵原東小学校が一緒になり、移転新築して開校した義務教育学校「美咲町立柵原学園」を視察。

義務教育学校の特徴を、かし学年段階の区切りを4・3・2年制とし、学校教育目標「ふるさと柵原を愛し、心豊かにたくましく、主体的に学ぶ子ども育成」を目指して、小学校課程と中学校課程の一貫した教育を行っていること。前期の3年生から音楽や理科など一部科目で教科担任制を導入し、教員の専門性を生かした指導で理解度を高めていること。また、目玉となる生活科・総合的な学

習を軸としたキャリア教育「柵原ドリーム学」では、地域住民とともに、子どもたちが柵原地域の自然や産業などをテーマに課題を見つけ、解決策を探ることで地域の活性化に取り組んでいること。などの説明がありました。

その後、鉄筋2階延べ約1万平方メートルの新校舎を案内していただきました。開放的な教室やオープンスペースで子どもたちが生き生きと学習に取り組む姿を目の当たりにしました。学校帰りの子どもたちが利用する「柵原児童館」を併設するほか、地域住民も利用できる多目的教室、図書室、交流ホールも備えていました。

「地域とともにある学校づくり」が地域の活力向上（学校を核とした地域ネットワークの形成）にも生かされていることが施設の整備の点から伝わってきました。

本村の学校づくりにとって大変示唆に富んだ視察となりました。



こんにゃく芋の生産量日本一を維持するには

村長 関係各所が連携し、消費拡大を促進

林 栄一 議員



問 こんにゃく価格低迷をどのようにとらえているか。

答 村長

コロナ禍の消費減退から、こんにゃく粉が過剰在庫となり価格の低迷に繋がっていると認識。農業資材価格の高騰なども重なり、農家の経営実態は「作れば作るほど赤字になる」という大変危機的な状況で、大きな経営判断を迫られていると感じている。

問 こんにゃくの消費拡大を今以上に推進していく策は。

答 村長

関係各所が連携し、そ



こんにゃく芋の掘取作業

それぞれの立場で消費拡大を促進する必要がある。さまざまな方策や支援策が考えられるが、一朝一夕にはできないため、継続して行うことが重要。今後も積極的に消費拡大の周知などを推進したい。

問 農家支援のため、村独自の補助事業などの支援策は。

答 村長

村単独の補助では限りがある。安定した農業経営ができるよう国や県に対し、価格安定対策事業の要望を行ない、収入保険の加入促進や代替作物導入などの補助事業を活用。できる限りの支援をしていきたい。

道路擁壁上の支障木伐採処理方針を明確に

村長 現地や関係書類等を確認し、適宜対応

問 道路へ覆いかぶさる道路擁壁上の支障木伐採は、各行政区で対応していかねければならないのか。道路愛護の範疇を超えた危険な作業となっている。処理方針を明確にしてほしい。

答 村長

樹木が民地法面から生えている可能性があった。現地や関係書類などを確認し、適宜対応していきたい。

問 森林環境譲与税を採などの環境整備に充てることはできないか。積立額と活用方法は。

答 村長

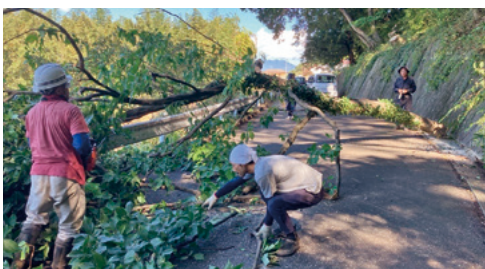
法が規定する使途では、森林環境譲与税を充てることはできない。

積立額は、令和5年度末で1,479万2千円。活用方法は、法の規定に定める使途の範囲で活用している。

問 積立をするだけでなく、村独自で予算化をして、支障となる擁壁上の樹木を村で伐採し、環境整備を図ってほしい。

答 建設課長

今後検討して参りたい。



擁壁上の樹木を道路愛護で伐採(椋久保区)



堤 宏康 議員

学校問題について「当初の在り方の部分まで戻る」とは

村長 令和5年3月「小学校の統合に向けた検討委員会」答申までが戻る時点である

問

9月の一般質問で、「白紙に戻す」とは「当初の在り方の部分まで戻る」という趣旨の答弁でした。「在り方」とは、「昭和村学校の在り方検討委員会（令和4年2月）答申のことと捉えていましたが。

答 村長

令和5年3月の「小学校の統合に向けた検討委員会」（以後、統合委員会と表記）から提出された答申が戻る原点。

問

統合委員会の結論で今後への提言に「昭和村の小学校3校を統合して1校とし、新しい場所に中学校と一体となった校舎を建設し、郷土愛を育む小中一貫校を作ること希望いたします。」とある。「小学校3校を統合して」とあるが、村長はどのように捉えていますか。

答 村長

段階的な統合もあり得るということ。最終的には推進協議会（仮称）で進めていただく。

問

「新しい場所に」とあるが、公平性の観点から、現在、小学校がある場所につくると不公平感があるので、あえて新しい場所、つまり「小学校としては、新しい場所に作ります」と解釈したのですが。

答 村長

確かに「3校統合して新しい場所に」となっている。この辺も踏まえて、推進協議会で進めていただきたい。「場所」について、私のほうから指示をするつもりはない。

問

「中学校と一体となった」とあるが。

答 村長

「一体となった校舎」という表現をしている。その後に、「小中一貫校」とある。

義務教育学校と小中一貫校は違うため、しっかりと協議していただくということ。

問

子どもたちの学び舎としての学校のほか、例えば複合的な施設として地域住民の方が活用できるような部分も学校には求められていると思うのですが。

答 村長

中学校の部活動の問題、家庭教育も含めていろんな問題がある。地域との交流を重視しなければならぬと考えている。

問

推進協議会に取り組まれているが、どのような構想をお持ちですか。

答 教育長

小中一貫教育の効率性の高さから言えば、義務教育学校が一番。次に併設型。連携型ではかなり率が落ちると考えている。

問

具体的な取り組みについては。

答 教育長

小中学校、保育園の保護者に向け、1月から2月にかけて説明会を実施するよう計画している。

問

将来的には複合的施設のように、地域の方も活用できる施設に学校の機能を広げていくことも必要と思う。地域の方の意見を聞く必要があると思うが。

答 教育長

委員予定の中に学校運営協議会から一人をもつて、地区の代表の方と捉えている。



林 勝美 議員

公共施設のトイレの清掃や管理について

村長 業務委託をし、適正に管理されている

問 村内にある公共のトイレの清掃や維持管理はどのように行われているのか。

答 村長

村内4か所の観光トイレとポケットパークは、社会福祉法人北毛清流会に業務委託をし、週3回清掃とごみ拾いをお願いしている。

維持管理は業者に委託し、浄化槽の管理など適正に管理している。

答 教育長

公民館や総合運動公園などの体育施設は、教育委員会事務局により、週2回各施設を回り、点検・清掃を行っている。

問 利用者からの意見や要望は把握しているか。

答 村長

利用者からの不具合な

どの連絡があった場合、担当職員が対応。清掃時に苦情や要望があった場合は、建設課に報告し対処している。

答 教育長

大便器の洋式化と施設をきれいにしてほしいという要望が多くを占めている。要望があった時点で、職員が確認し対処している。

問

トイレのリニューアルや管理体制の改善を計画しているか。

答 村長

現時点では計画をしていない。

答 教育長

教育委員会の管轄している施設は更新や改善が必要なものが多く、村と相談し、改善していく。

問

村内外から多くのお客様を迎えようとしているが、そのお客様が気持ちよく利用していただくために、バリエーションアップしたトイレが必要と考える。

答 村長

基本的にトイレは毎日使うもので、平時の管理をこまめに行う必要があると考えている。

問

ミネラルイオントイレという簡易トイレがある。小型の簡易トイレは、農家の方が圃場（ほじょう）に持ち込んで利用ができる。また、大型の簡易トイレは望郷ライン沿いや広域農道に設

置き、非常時にはそれを避難所に集結して利用できるが、村長はどう考えるか。

答 村長

そういうことも検討していくが、まずは洋式化と洗浄機付き便座のトイレを設置することを考えている。

要望 きれいなトイレから村づくりを進めていただきたい。



貝野瀬ビューポイントの観光トイレ



佐藤 好美 議員

定住化促進、空き家改修補助創設 および新改築住宅補助拡充を求む

村長 空き家解体補助事業8年度見直し、
社会情勢を見て定住化促進

問

定住化促進のために、空き家対策改修費用補助新規創設や新築住宅補助規制緩和、住宅改築費用補填の拡充を求めます。

村内に空き家は206件(令和5年実態調査あり、賃貸・売買・空き家バンク登録のためには、物件の改修や物件内の処分費用がかかります。その費用の支援策と、空き家解体補助50万円も支援の拡充を願います。

新築住宅補助条件である、対象45歳まで、配偶者あり、2世帯住宅は玄関2力所設置などの規制緩和を求め、定住化促進プロジェクトチームの立案に期待します。

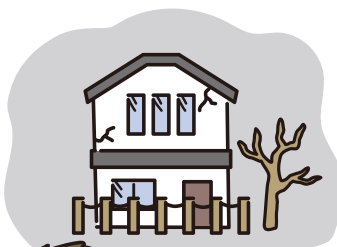
特に物価高騰が住民を直撃しています。社会の情勢を見て制度改正は必須かと考えます。

答 村 長

令和8年度に空き家解体補助金見直しを行い、村内の空き家を減少させる取り組みを進めていきます。

新築住宅補助金については、若い世帯を対象に補助することで、人口の流出に歯止めをかけ、人口増加を見込めるよう考えます。

住宅リフォームは増改築の状況や社会情勢を見て、事業内容を確認します。



デマンドバス「ドアからドア」へ

村長 他市町村の取り組みや福祉バス導入を研究

問

高齢者や障がい者、妊産婦などに配慮した「ドアからドア」への、自宅と目的地を繋ぐ仕組みの運行はできないでしょうか。

より村民に優しい理想的な運行の改善を求めます。

答 村 長

「ドアからドア」は移動には大変便利で理想のサービス。しかしデマンドバス型交通は、運行許可条件があり大変難しい案件です。

他市町村の取り組みや、福祉バスの導入などを含め研究していきます。

役場庁舎内に「村民交流広場」を

村長 ロビーなどの余裕スペースの利用は難しい

問

昭和村のシンボルとも言える新しい役場庁舎ができました。村民のために居場所・憩い・交流の場所を役場庁舎内にぜひ設けてください。

答 村 長

役場の窓口はさまざま

な方が来庁され、時には深刻な話をしている中で、他者の談笑の声や視線は好ましくない環境になります。ロビーなどの余裕スペースを使用することは難しく、また、議場や会議室も現在一般開放は考えていません。

加藤
生
議員



混雑する旬菜館の抜本的な解決策は

村長 来年度予算に計上はできないが、増改築工事を再検討



お客様で賑わう旬菜館

問

平日でも店内は混雑を極めております。何か抜本的な解決策を各課で調整をし、違ったイメージで村をPRしながら、利用客の皆さま、利用者の皆さまに迷惑のかからない施設とするのか。それとも現状のまま、ずるずると営業をしていくのか。考えを伺います。

答
村長

旬菜館の売り場面積が狭いことや、レジを待つ列が発生している現状に

ついての解決策として、令和5年度に増改築工事で増床を検討しましたが、建築基準法により増床面積に対する費用対効果が少ないことにより、断念しました。事業については現在、再検討をしています。

現段階では、来年度予算に計上はできませんが、県から新しい交付金の情報提供がありましたので、増改築なども該当するかなど、調査・確認を行っています。

答
産業課長

今後、建物の拡張は優先的に必要であると感じていますが、拡張していく場合には、地形や構造上などの問題があります。道の駅周辺を拡張していくためには、道の駅全体の構想を皆でつくり、計画的に拡張をしていくことが、利用しやすい道の駅になると考えています。

答
村長

旬菜館だけではなく、道の駅全体として考えていきたい。それから観光拠点となる、村観光協会の拠点を作りたいと思っています。そして、道の駅の経年劣化しているトイレや、足湯なども改修していきたいと考えています。

問

J A 資材倉庫北側から森下幹線までのエリアで、全体計画を描いてみてはいかがか。



林 幸司 議員

村民要望に応えるため 村道予算の増額を

村長 増額については総合的に判断したい

問

工事の単価は上がっているのに、

村道維持補修予算は10年以上も増やされていない。そのためデコボコ危険村道が増え、区の要望も5年待ちは当たり前と、改修が追いついていない。増額するよう求めます。

カーブミラーは何基あり維持補修に必要な台帳管理は。防犯灯の管理と村営移行を求めます。

答
村長

各地区の要望に応えられていない状況ではあるが、村道維持補修予算の増額については総合的に判断したい。

カーブミラーの基数は把握しておらず、台帳管理も行っていない。

防犯灯は、村統合型地理情報システムにて管理しています。村営移行については、引き続き村で支援しながら各行政区にお願いしたい。

本気で「空き家」の活用推進を

村長 固定資産税減免は慎重に判断

問

空き家の活用を本気で推進する必要

があると考えている。危険空き家解体に伴い敷地活用へ、税減免の実施を求めます。

また、村が改修し活用をしたり、解体し宅地として活用する事業の実施を求めます。

答
村長

空き家の活用については、全国66の市町が固定資産税減免または補助をしているが、公平性や透明性の観点から慎重に判断をしていきたい。

村が買い上げて活用することについては、権利

大災害多発から防災対策の強化を

村長 自主防災組織全地区設立へ向け支援

問

防災行政無線の難聴解消策は。全世

帯に聞こえるようにするには多額の経費がかかることから、個別受信機の現状と活用方針について伺いたい。

自主防災組織の現状と今後の対応は。

消防団員の報酬を、国基準以上に引き上げるよう求めます。

答
村長

運用開始以降、屋外でも聞こえない2地区に子局の増設やスピーカー増設などの対策を行った。

戸別受信機は避難所、詰所や住民センターなど82カ所に設置している。緊急告知FMラジオやひかり電話サービスなど、複合的な活用に向けてまいります。

関係の調査や、買い上げ・改修・解体費用などを考えると、好条件の物件でない限り、買えば買うほど村の財政的負担が心配されます。

不動産の専門家ではない行政よりも、民間事業者に取り組んでいただきたいと考えています。

現在7つの自主防災組織が活動。新たに9行政区が設立に向け準備中。全地区設立へ支援を行っていききたい。

分団運営補助金を団員1人あたり2万2千5百円増額する改善を行った。団員報酬は国基準に達していないが、村単補助を含めると1人5万円を超えている。今後も改善に努めていきたい。

新年のあいさつ



議長 永井 一行

新しい年を迎えて少し時が経ってしまいましたが、本年もよろしく願います。皆さまにとって、また村にとってよい年になるようお願い、そのために努力したいと思います。

このたび議会改選によって議長という大役にご推挙いただき身に余る光栄であるとともに、職責の重大さを痛感しています。議会の果たすべき役割を十分認識し本村の発展と村民福祉の向上に最善の努力を尽くす決意であります。

今後とも村民皆さまのご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



副議長 沢浦 典子

昭和村議会第24代副議長の職に就かせていただくことになりました。議長の後任をしっかりと務め、責務を果たしてまいりたいと思います。

昭和村がかかえているたくさん課題を、地域の皆さまの意見を聞かせてもらい、それを反映させ、応えられるよう取り組んでいきます。また、開かれた議会を常に心がけていきたいと思っています。

多くの皆さまに「昭和村に住んでよかった」と感じてもらえるよう、全力を尽くしてまいりますので、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。

結びに新しい年が村民皆さまにとって良い年でありますよう、心よりご祈念申し上げます。



編集室から

議員として2年が経過。昨年12月に議会構成が変わり、新たな年がスタート。高温続きと、資材の高騰。農家にとっては、こんなにやく辛価格暴落など厳しい昨年。困難な状況でも、希望を持ち皆さまと共に進みたい。

今月号では、中学生議会を取り上げ、発想豊かな質問や提案が村の活性化の一助に。

議会活動が見えて、信頼と手を取り読まれる「議会だより」を今後も目指したい。編集内容も工夫し、皆様のご協力をいただきながら、紙面づくりに編集委員一同努めたい。

林 栄一 記

議会広報編集特別委員会

委員長 林 栄一

副委員長 藤井 貞充

委員

阿部 孝司 佐藤 好美

堤 宏康 沢浦 典子

永井 一行



議会だより
既刊号